

## 高齢者の近所づきあいと”やせ”の関連は農村と都市で異なるか？ JAGES新潟研究より

研究分担者 菖蒲川 由郷（新潟大学大学院医歯学総合研究科 准教授）

### 研究要旨

【目的】高齢者のやせ（BMI<18.5）と近隣との結びつきの関連と、その関連が農村部と都市部で異なるかを明らかにする。

【方法】JAGES（日本老年学的評価研究）2013調査に回答したN県内3市町内の回答者計18,429名（男性8,382名、女性10,047名）を対象とした。横断分析とし、男女と都市部・農村部を層別化したロジスティック重回帰分析を用いた。従属変数をやせ（BMI<18.5）、説明変数を近所づきあいよい/よくないとした。共変量は年齢、主観的健康感、教育年数、等価所得、残歯数、肉魚を食べる頻度、野菜果物を食べる頻度、歩行時間、GDS、独居か否か、最長職とした。

【結果】やせの割合は農村部男性で5.4%、都市部男性で6.2%、農村部女性で7.9%、都市部女性で9.9%であった。ロジスティック重回帰分析の結果、近隣との結びつきが強い場合に比べ、弱い場合、農村部の女性でのみ有意にやせのオッズ比が高かった（OR=1.55, 95%CI1.17-2.07）

【結論】近隣との結びつきは一般的に農村部で強く、コミュニティとの結びつきが弱い人がネットワークから排除される可能性がある。特に行動範囲が地域に限られがちな農村部の女性では、地域との結びつきが弱いことで、より大きな不利益を受ける可能性がある。このため、農村部で孤立した高齢者（特に女性）がやせになっている可能性があり対策が必要である。

### A. 研究目的

1. 高齢者のやせ（BMI<18.5）と近隣との結びつきの関連を明らかにする。
2. やせと近隣との結びつきの関連は農村部と都市部で異なるかを明らかにする。

### B. 研究方法

[対象]JAGES（日本老年学的評価研究）2013調査に回答したN県内3市町内の回答者N市（都市部）男性2,195名、女性2,575名、T市（農村部）男性4,894名、女性5,873名、A町（農村部）男性1,293名、女性1,599名の合計18,429名（男性8,382名、女性10,047名）

【方法】横断分析とし、男女と都市部・農村部を層別化したロジスティック重回帰分析を用いた。  
従属変数：やせ（BMI<18.5）  
説明変数：近所づきあいよい/よくない  
共変量：年齢（65-69歳、70-74歳、75-79歳、80-84歳、85歳以上）、主観的健康感、教育年数（中学生以下、高校生以降）、等価所得（5カテゴリ：50万未満、50-100万、100-200万、200-400万、400万以上）、残歯数（0-19本、20本以上）、肉魚を食べる頻度（4回/週以上、3回/週以下）、野菜果物を食べる頻度（4回/週以上、3回/週以下）、歩行時間（30分未満、30分以上）、GDS（老年うつ評価尺度）（0-4, 5-9, 10-15）、独居か否

か、最長職。

(倫理面への配慮)

本研究は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を遵守し、新潟大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

#### C. 研究結果

やせの割合は農村部男性で 5.4%、都市部男性で 6.2%、農村部女性で 7.9%、都市部女性で 9.9%であった。ロジスティック重回帰分析の結果、近隣との結びつきが強い場合に比べ、弱い場合、農村部の女性でのみ有意にやせのオッズ比が高かった (OR=1.55, 95%CI1.17-2.07)。

#### D. 考察

近隣との結びつきは一般的に農村部で強く、コミュニティとの結びつきが弱い人がネット

ワークから排除される可能性がある。特に行動範囲が地域に限られがちな農村部の女性では、地域との結びつきが弱いことで、より大きな不利益を受ける可能性がある。

#### E. 結論

農村部で孤立した高齢者（特に女性）がやせになっている可能性があり対策が必要である。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

Y Shobugawa et al. Neighborhood social interaction and underweight among Japanese older adults: evidence from the JAGES Niigata Study (Social Science and Medicine に投稿中)